

◇ 進化する省エネ技術 ◇

電気がないと日常生活は機能しません。その電気エネルギーを基にして動作する電気製品は年々、様々な物が開発され進化を遂げています。

生活に大きく関わり、助けてくれる電気製品の進化は目を見張るものがあり、これからも進化をし続け、私達の快適な暮らしをサポートしていく事でしょう。

安価な深夜電力を利用

当時、利便性や快適性、耐久性など最良と思われ提供し続けてきた蓄熱式暖房機や電気温水器ですが、現在これらの機器は製造を終了していたり補修用部品の保有期間が過ぎている機器が大半だと云われています。

現在は、ヒートポンプ方式の機器が主流となっています。ヒートポンプは、少ない投入エネルギーで空気中などから熱をかき集め、大きな熱エネルギーとして利用する技術の事。

この技術を使った、エアコンや冷蔵庫、洗濯機などは省エネ家電と言われ、エコキュート（給湯機）は省エネ設備と言われています。

このように一つひとつの機器をとってみても、少ないエネルギーで能力を最大限に引き出す、熱効率の良い省エネ化へと変化を遂げているのが実情です。

再エネ発電賦課金単価算定

平年並みの気温と予想されていた2017-2018の冬でしたが、全国的に気温は低く家計への負担も増えた事とされます。毎月、電気料金の一部として負担している再エネ発電賦課金の今年度単価が算定されました。

再エネ発電賦課金は、太陽光発電や風力発電、地熱発電など発電コストの高い再生可能エネルギーの買取りに要する費用を、再エネ発電賦課金として使用電力量に乗じて算定され、電気を利用している皆さんが負担しています。

今年度の再エネ発電賦課金単価は、以下の通りです。

適用期間	単価（税込）
平成29年5月分～平成30年4月分まで	2.64円/kWh
平成30年5月分～平成31年4月分まで	2.90円/kWh

平成27年度は0.75円/kWh、平成28年度は1.58円/kWhと年々上昇しておりますが前述のとおり、再エネ発電賦課金は再エネ発電賦課金単価（円/kWh）×使用電力量（kWh）。現時点で再エネ発電賦課金を抑えるには、使用電力量を下げる事でしか選択枠は無いようです。

使用電力量試算

下表は、北海道内の至近6か月の使用電力量（kWh）を基に蓄熱式暖房機から寒冷地エアコンへ、電気温水器からエコキュートへと設備変更した場合の北海道電力が試算した数値を表にしたものです。

	蓄熱式暖房機	寒冷地エアコン	電気温水器	エコキュート
2018/2	2,219	968	657	267
2018/1	2,698	1,181	698	283
2017/12	2,134	892	570	221
2017/11	941	337	447	156
2017/10	78	21	410	130
2017/9	0	0	373	109
合計	8,070	3,399	3,155	1,166

上表の場合、蓄熱式暖房機から寒冷地エアコンは4,671kWh、電気温水器からエコキュートでは1,989kWh、合計で6,660kWh削減しているのが見て分かります。省エネ家電及び設備の導入で、電気料金に反映される事はもちろんの事、左記にある再エネ発電賦課金も17,582円下がる事となります。

北海道電力では、現時点での契約内容と至近12ヶ月の使用電力量を基に省エネ設備へ変更した場合の試算書を作成して戴けます。

また、webでも省エネ提案をする電力会社もありますので、機器が故障してアタフタする前に今一度、使用機器の年代や状態を確認して、突如訪れるトラブルを想定しておく事が必要です。

省エネ設備への改変

古い機器を長く大事に使う事も大切ですが資産価値という観点から生活環境を変えずに、使用電力量を抑える機器の入れ替えを検討されるのも得策かと思われれます。省エネ機器にご興味あるユーザー様は是非、最寄りの電力会社に相談してみてください。大きな財産でもある住まいを後世にまで引き継いでいける提案をしてくれる事でしょう。

ストレスのない、より快適な暮らしを実現していくために・・・

（著 ハウジング事業部 久保田公明）

幸太の知恵袋

黄ばんだ歯を白くするには

歯は毎日磨いてるかい？

きちんと磨いた白い歯はやっぱり、清潔感があって、気持ちいいもんだね。

黄ばんだ歯を白くするには、こんなやり方があるんだよ。

すりつぶしたイチゴを、歯ブラシに付けて磨いてごらん。

これだけで、かなり黄ばみや汚れが落ちるよ。試してごらん。